

ホタテガイ養殖管理情報

青森県 東青地方水産事務所
下北地方水産事務所
水産振興課
青森市水産振興センター

新貝の体力を十分に回復させるためにも、稚貝分散を優先して作業しましょう

1 海況

10月17日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は20℃に近づいてきており、来週には下回る見込みです（図1）。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード）をご覧ください。

海況自動観測ブイの15m層の半旬別平均水温の推移は図2のとおりで、20℃以上の高水温期間は平年値であれば約2か月ですが、今年は約3か月継続しています。

2 新貝（来年の親貝）の作業の注意点

- 現在の水温は、新貝が成長を再開する20℃に近づいている状況です。
- 今年は高水温期間がかなり長く、新貝は疲弊した状態であると考えられます。20℃を下回ってもすぐには作業を行わず、施設を下層から餌の多い中層まで引き上げ、新貝を1週間以上養生させてください。
- さらに、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから作業しましょう。
- 1段当りの収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながるので、養殖方法に応じた適正な収容枚数（1段当り丸籠10枚、パールネット4枚）を心がけて作業してください。
- 流れによるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、籠にはオモリをつけましょう。また、流れが速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずぎないようにしましょう。

3 稚貝分散の注意点

新貝の体力を十分に回復させるためにも、稚貝分散を優先して作業しましょう。

稚貝分散が遅れるとへい死率や異常貝率が高くなることが分かっています。しかし、今年は高水温の影響で作業の開始を遅らせざるを得ない状況でした。

そのため、稚貝分散を開始できる施設から順に効率よく作業を行い、できる限り早めに終わらせるようにしましょう。

小さい稚貝も有効に活用しましょう。

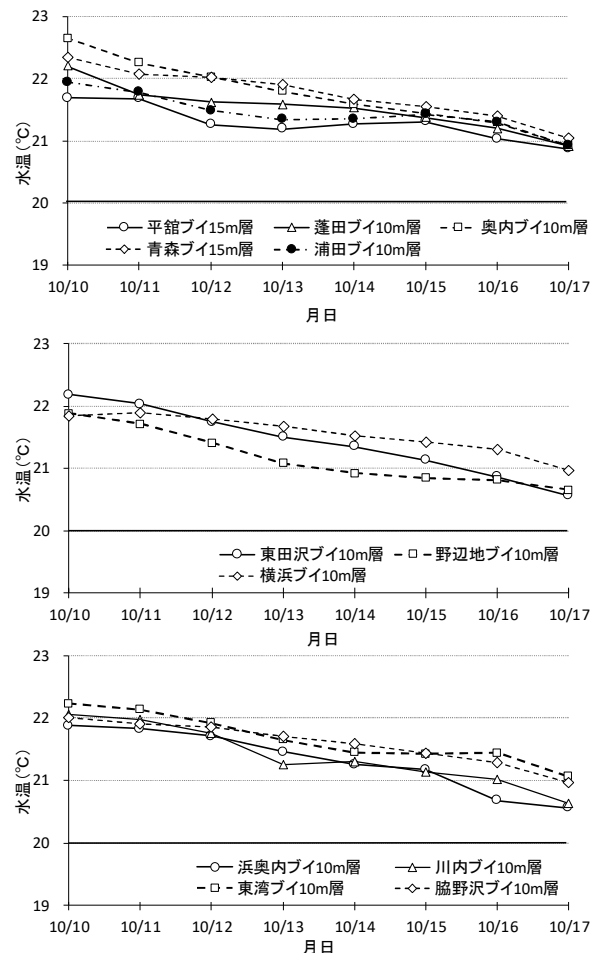


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

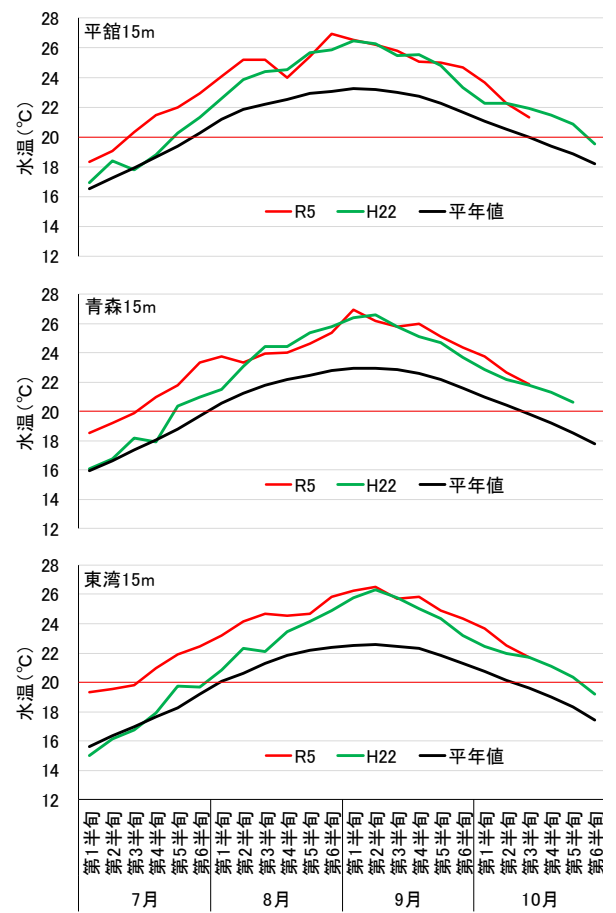


図2 海況自動観測ブイでの15m層の半旬別平均水温の推移 ※暫定値を含む

